



次に、グローバルユース国連大使育成事業についてお話しします。

この事業は世界平和の実現に向けグローバルな視点を持って自発的に行動できる若いリーダーを育成するものです。

私は、任命されてからこれまでオンライン研修、2回の国内研修そして夏休みの7月30日～8月6日にかけてカンボジアで研修を受けました。

東京での第1回国内研修では初めて全国から集められた大使とともに平和やコミュニケーションについて学びました。また2回目の広島での研修では広島平和公園の原爆資料館の見学や体験者の話を聞き戦争の恐ろしさ平和の大切さを実感しました。そしてカンボジア研修では現地の大使と共に戦争の博物館の視察やグループワークを通して更に学びを深めました。

カンボジア研修での学びについて

①内戦の歴史をたどる

ポルポト政権下での虐殺について学びました。絶対にこうしたことをくり返してはいけないと思いました。ショックだったのは幼児を殺したのが年齢もあまり変わらない子どもたちだったという事です。洗脳された子供は無垢なだけにそうした行為をしてしまうのだと知りました。

②文化や生活に触れる

アンコール遺跡群では、ポルポト政権下の荒廃でまだ工事が途中の所もありました。伝統舞踊の見学ではショートパンツをはいてい

たら、大人の人から膝が隠れるタオルを巻いてもらいました。男性はそのままの服装でも入れたので少しジェンダー不平等を感じました。

③持続可能な支援を考える

LCが井戸の建設や魚の養殖事業を支援した地域を訪問しました。

④互いを知り、問題解決のために協力し合う

2日目から現地の大使たちと生活するなかで始めはコミュニケーションが取れるか心配しましたが、次第にジェスチャーを交えて接することが出来て最終日には仲良くなれたのでとてもいい経験になりました。コミュニケーションツールが言語だけではない事を実感しました。グループワークの場では自分の考えを絵などにして発表し、疑問に思うことはすぐに質問して意見を交換出来ました。

グループ発表では、日本サイドでは「平和ってなんだろう」というテーマにいきづまり、衣食住についての発表が多かったですが、カンボジアサイドでは「差別がない」「教育がいきわたっている」「他の国の友だちがいる」など素直に書いていて、国のバックグラウンドの違いを感じました。

日本とカンボジアの課題については、日本は「ジェンダー不平等」「食品ロス」「海洋問題」が挙げられ、カンボジアからは「教育」「貧困」「経済格差」が挙げられました。

解決方法としては情報発信など技術面での提案が多く、カンボジア側からは「思いやりをもつ」など気持ちの面での解決策が多かったです。

研修を終えて

都市部と農村部を訪れてみて、貧困地域ではものごいの子どもなどもいて、教育を受けられない負の連鎖がおきていると感じました。この連鎖を断ち切るために教育の充実が大切だと感じました。